



なにしょんな

発行責任者
企画 池田克彦
編集人 矢田敏雄
渡邊剛至

高松・塩江ふるさと会事務局

〒252-0101
神奈川県相模原市緑区町屋 3-14-13
電話・FAX 042-782-8630
電子メール CYR02356@nifty.ne.jp
ホームページ
<http://www.高松・塩江ふるさと会.com>

ふるさと会よりご報告

会長 (高松市観光大使)
池田 克彦



皆様お元気のことと存じます。常日頃ふるさと会活動に対するご協力有難う御座います。今年

の夏は猛烈な暑さが続きましたが、秋が短くもう冬がやってきた感じです。さて前号に続いて4月以降の活動報告をさせていただきます。

4月・8月関西ふるさと会員との懇親会。5月・6月・9月東京別海ふるさと会総会と納涼大会及び秋刀魚祭りに参加。5月・7月塩江コミュニティ協議会と打ち合わせ。7月・8月・9月・10月役員会。9月高松市民大学講演。10月瀬戸内国際芸術祭島巡りと塩江訪問を致しました。ふるさと会の後援事業で、CB・しおのえとのビジネスとして、枇杷(併せびわ灸施術)とツリーハウス事業可否の調査をお願いしたところ、枇杷の生産量が難しい旨の回答があり、ツリーハウス事業は可能性がある事で上西森林組合とふるさと会法人会員(株式会社システムダビンチ)との間で今後具体的に詰めることにしました。

次に、9月高松市民大学にて「ふるさと塩江のこと」のテーマで講演をさせていただきました。趣旨は、課題が色々あるふるさと会活動を今後どうしたらよいかを考える。としたもので慣れぬ講演でしたが、塩江の地理・歴史・観光・産業などをご紹介しながら、課題としている参加意識の希薄、ふるさととの連携の場、ふるさとに対する思いやりと歴史文化の理解、人間関係・家族との絆、ふるさと会の存在意義、などの課題指摘とその背景を述べ、その対策として、塩江の歴史・観光・産業・伝統文化などを再発見し、ふるさと再認識(ふるさと学の確立など)・話題作り・情報共有などにより、参加意識と意義を高め、郷土愛：ふるさとを思う環境作りが出来ればとしました。併せ会員対象枠を県外在住者・塩江出身者の関係者縁者に広げ、特に若者の会員確保を目指し、ふるさと塩江に対し活性化の為、幾ばくかの支援が出来たらと考えています。先ずは、ふるさとと向かい合う共有・共感のテーマ作りが出来ればと講演を締めくくりました。

特集 瀬戸内国際芸術祭 島めぐりと塩江の旅



会長 池田 克彦

10月5日から、瀬戸内国際芸術祭島巡りと塩江旅行を首都圏・関西圏から30名程参加えて実施しました。知人の塩田幸雄小豆島町長のご紹介もあって小

豆島ふるさと村(国民宿舎)の森川佳則専務さんのはからいで歓迎会と島内見学(福田有紀記者の取材:10月6日四国新聞の塩江会 古里の魅力再発見で掲載)を楽しく過ごさせて頂きました。直島の地中美術館等の見学はこれが現代アートを代表するのかと感嘆しながらウロウロしました。久しぶりにゆっくり見る瀬戸の海に時間を忘れ綺麗な島々の中に太陽が沈む景色も素晴らしいものでした。6日は、塩江温泉を国民保養温泉地指定にご尽力頂いた元環境省課長塚本忠之氏をお迎えし、中井元町



長・佐藤市会議員・尾形支所長さんらとセカンドステージで歓迎会を開催しました。7日は、地元関係者のご協力をえて実現しました塩江上西地区で、ふるさと会の法人会員が事業を行うツリーハウスのモデルを、市観光振興課補佐中西省吾さん(財)高松観光コンベンション・ビューロー妻鹿奈緒美さんらと見学をしました。このツリーハウスは、間伐材等を利用して木と木の間に家を「造る過程」を体験するプログラムです。欧米と首都圏でも流行っており木に囲まれた癒しの空間で、人間復活、家族との絆を取り戻す空間としても今人気となっています。本事業は、塩江で初めて(おそらく香川県下でも初めてかと)取り組むもので、来春オープン予定のものが皆様のご支援いただき是非成功させたいものです。**瀬戸内国際芸術祭島巡りと塩江の旅に参加して**



塚本 忠之

私は丸亀市の出身ですが、環境省に在職中の最後の仕事として平成14年3月に塩江温泉を温泉法に

指定したご縁で、平成20年の高松・塩江ふるさと会の総会において名誉会員に推挙されました。池田会長とは環境省時代からのお付き合いもあり、このたびの企画に参加させていただいた次第です。小豆島の国民宿舎では環境省時代に同じ局内で課長だった町長の塩田幸雄氏と歓談する機会に恵まれ、また、塩江温泉では中井当時の町長にもお会いでき懐かしい一時を過ごすことが出来ました。直島ではベネッセハウス、地中美術館等を見学しました。芸術の良さは殆ど理解できませんでしたが、ふるさと会の企画のお陰で貴重な体験をさせていただきました。また、旅を通じて直島観光をコーディネートされた藤嶋さん、環境省ともご縁があった山本さん、偶然同じ狭山市に在住の沢田登美恵さんなど多くの人

たちと親しくさせていただき、私の大きな財産にもなりました。もと、若い人達ばかりの団体旅行にも関わらずなんのトラブルもなく皆様素晴らしい人ばかりでした。3日目は皆様とお別れして、丸亀の両親の墓参りをし、丸校時代の友人にも会い本



当に充実した素晴らしい旅をすることが出来ました。皆様本当に有り難うございました。

(埼玉県狭山市住 高松・塩江ふるさと会名誉会員)

瀬戸内芸術祭・島巡りと塩江の旅に参加して



副会長 藤嶋 秀機

今、台風14号が関東の南の海上を北上しています。北日本で、初雪の知らせがあったばかりなのに・・・四月の雪、寒い梅雨、記録的猛暑の夏と今年は「異常

気象」ばかりでしたが・・・会員の皆様には、お元気で過ごしてでしょうか。10月初め、瀬戸内国際芸術祭を鑑賞しながらの瀬戸の島巡り塩江でのイベント・讃岐の名所(金毘羅・善通寺・丸亀城・瀬戸大橋)めぐりの旅をしてきました。(高松・塩江ふるさと会主催)今回の旅の目的は三つ、①高松・塩江ふるさと会として、瀬戸内国際芸術祭に参加すること、②塩江地区でのイベント(ツリーハウス事業)に参加して、地元の振興に奮闘されている方々との交歓を図ること、③参加いただいた別海ふるさと会の皆さん・各地の高松塩江ふるさと会の皆さんとの親睦を深めることであります。☆芸術祭は、船の連絡バスの手配がうまくゆかず、予定変更などが多く、不本意な結果となりました。もう少し時間をとって少人数でじっくりと鑑賞する体制(団体には不向き)を取るべきでした。しかしながら高松一小豆島一直島一男木島一女木島一高松と波静かな瀬戸内海の多島海クルーズを楽しむことができました。塩江では、ふるさと会青年部、渡邊さん佐藤さんの努力による、ツリーハウス建設現場見学・体験に参加し、また中井前町長・佐藤市議・尾形支所長・和泉さん・藤川牧場皆様その他お集まりの方々との懇親会を通じて、



《ふるさと塩江》の活性化について懇談し、

地元の皆さんの熱い思いにふれ、感動しました。それにしても、波ひとつない鏡のような海に浮かぶ島々と、島影に映えた真っ赤な夕日は一きれいだっただなあー

(都内福生市内住 高松・塩江ふるさと会員)

瀬戸内芸術祭島巡りと塩江の旅

鈴木 勝春



秋のさわやかな10月5日～8日4日間、四国高松・塩江の旅が高松塩江ふるさと会(会長池田克彦氏)の主催企画された視察、旅であった。

別海ふるさと会からは13人が参加し、総勢30人で香川県の瀬戸内の島々、塩江町のセカンドステージ等の見学、体験の旅が行われ、その旅の感想を出筆してほしいとの依頼があって、見たまま思うがままに綴る。1日目(5日)は羽田空港から高松空港へ1時間15分で到着し、循環バスで高松港へ食後、フェリーで瀬戸内の島々を眺めながら海と島々に美感を味わい、カメラと語る航上での旅人達は小豆島池田港へ着く。待つ観光バスにて手延べそうめん館を訪ね、冷やしそうめんの試食、それは美味だった。次に二十四の瞳映画村を訪れ、明治時代の尋常小学校教育の姿が映画化された実体が古きふるさとの田舎を思い浮かべる。更に明治創業マルキン醤油記念館、オリーブの栽培から製造、商品、公園等の見学を終え、小高い小豆島国民宿舎に着くと、その高地から眺める美しい日没。“瀬戸の夕陽”は一声をあげ美景にカメラが向けられる。



2日目(6日)は土庄港から高速艇で直島港へとベネッセハウスへゆく歩く。島の歩道から海の島々は美景にさそわれながら高い地の美術館には安藤忠雄先生の現代

アート作品を觀賞しながら、自然に溶け込む美術の表現。また直島町役場の御殿建物には驚きもあり、女文楽屋敷など見学し、再びフェリーで高松港へ塩江上西セカンドステージで宿泊し、夕食とカラオケで楽しむ二夜であった。3日目(7日)のメインはバスにてツリーハウスの体験、大滝山、最高峰にある古き大龍寺を訪れ、さらにふじかわ牧場で牛乳・アイスクリームを食味しながら、歌舞伎金丸座・金毘羅神社を歩き、夜は湯元八千代に宿泊し、食と湯の味にしたり眠る。4日目(8日)はバスにて空海の生家・善通寺を見学し、近くある古物博物館を訪れ、瀬戸大橋と島を見ながら、丸亀城を訪れ、市役所が案内人として説明を受け、城主の初代は生駒家とあって驚いたことだ。秋田県本荘市に住む私の大学時代の友人生駒重孝君が先祖の城主ではないのかの発見でもあった。これで旅も終え、高松空港から羽田へと4日間の旅は心に楽しい一時を与えてくれたことを感謝して…。完

(神奈川県横浜市内住 東京・別海ふるさと会員)

瀬戸内と塩江の旅に参加して

山川 桜子



三年続けて塩江訪問旅行に参加させていただきました。今年は瀬戸内海の楽園・小豆島訪問や、折よく開催中の瀬戸内国際芸術祭に、予定

きたかった金毘羅も加わり、期待いっぱいの旅でした。光あふれる小豆島。手延べそうめん館の箸分けに感心しました。二本の棒に巻きつけた三十センチほどの素麺が、あっという間に二メートルに。気候に合わせて材料の微調整が難しいとのことでした。何か懐かしい二十四の瞳映画村から醤油工場、オリーブ公園を経て国民宿舎に入りました。「日本の夕日百選の宿」というだけあって、夕日の美しさに感動しました。直島では、ベネッセミュージアムと地中美術館へ。何れも安藤忠雄氏の設計で、海と空と建物とオブジェが心地よい調和を見せています。国際芸術祭は垣間見ただけでしたが、島とアートの出会いが瀬戸内に何をもちたらすのか興味津々です。お馴染みの塩江セカンドステージに泊まった翌日、ツリーハウス体験場を見学しました。山林活性化の一助となるよう期待しましょう。琴平では日本最古の芝居小屋・金丸座を見学しましたが、春の歌舞伎上演時に



の四日間を、皆様と楽しく過ごすことができました。(都内大田区住 東京・別海ふるさと会員)



事務局よりお知らせ

1) 会員投稿を以下ご紹介いたします。

キレンゲショウマに会いたくて 吉井加寿子

送迎をセカンドステージ様をお願いして、宮尾登美子著「天涯の花」のヒロイン、珠子気分の14人は8月4日、剣山のキレンゲショウマ咲く「行場」を目指した。小雨の中「見の越」リフト乗り場に向かう途中「あ!虹」の声が、谷から大空へ縦に虹が架かっている。リフトで昇って行くと下にキレンゲショウマが植えてある。雨風共に強くなっていく。15分で「西島」だ。ここから緩やかな階段登り、10分で「刀掛けの松」に着く。一方通行の道標に従い反時計回りに2つのキレンゲショウマ群生地を周回す見頃になっているのはネットでわかっている。「行場」というだけに石がゴロゴロした足場の悪い道を下る。早く会いたい。テンニンソウの大群落を抜けると「あった!」すかさず「何歳?」ちょっと考えて「16歳」、「・・・」少し下っていくと第一群生地がありました。娘盛りのキレンゲショウマがうつむき加減で月光に輝いたように咲き競い、山斜面を埋め尽くしています。その初々しさにうっとりみとれてしまいました。ここは花を近くでじっくり観察できます。まずは花の写真を、次は花と記念写真です。さらに下ると古剣神社が鎮座し、次の両剣神社は岩の上の小さな祠でした。ここから急斜面

を登り返すと、北側の谷に滝のように流れ落ちる



第二群生地があります。ここは花の後ろ姿が深緑の中に黄色い玉のように点在します。ちょっと登っては振り

返るとまだ林の中で黄色く光っています。名残惜しむ気持ちでまた振り返ります。約1時間半で「刀掛けの松」に戻りました。ここから頂上までは30分です。翌日は大滝山の樹齢約300年のケヤキめぐりをしました。美味しい水をペットボトルに詰め、約2時間のブナ、ヒノキ、ケヤキの林を歩く、快いハイキングを楽しみました。猛暑が嘘のように山は風の通り道に出ると涼しい。幾重にも重なる木の枝を見上げると、光と木の精の恵みに包まれた、生き生き人間になります。森の力でしょうか。元気になって「アマゴの掴み取り」が始まりました。ヌルッと手から滑りぬけてなかなか難しい。捕まえたアマゴに串を刺し塩焼きです。初めて食べる鮭色の身は特別、美味しい。フィナーレはスイカ割り。キャンプに来ていた小学生の「右!右!」の応援に、乗りに乗った人生の2ステージを演じる目隠し娘は棒を振り上げました。待望もののキレンゲショウマに会え、塩江の山を歩き、大満足の山行でした。セカンドステージのみなさま、本当にありがとうございました。

沢山

(神奈川県大磯町住 高松・塩江ふるさと会員)

2) 来年度の事業として以下を予定しております。①総会を都内四谷で6月末②創立20周年記念事業として6月末に北海道旅行と機関誌

「かたかたどうし」4号の発刊④松茸再生後援事業及びツリーハウス後援事業。

3) 塩江慕情:湯の町・塩江・初恋の町 CD 歌うのは塩江町出身の和泉幸弘さん(昭和22年生まれ:市内一宮町1841-5) CD希望の方は事務局迄 無料でお送りします。

情感溢れる素晴らしいふるさとの恋歌です。

4) 8月ふるさと会副会長の大峯一行さんが亡くなられました。安原下黒石のご出身で享年65歳。

ふるさと会創立以来20年間会のため地道に活動戴き葬儀にはユニホームと別海町を旅した写真が飾られていました。ソフトボールと旅行がお好きでまだまだお若いのに惜しい方でした。心から会活動頂いた御礼とご冥福をお祈り致します。

5) 22年度ふるさと会会費納入有難う御座いました。未納方は郵便局扱い口座記号00150-2:口座番号196649 加入者名:首都圏ふるさと塩江会 会費¥2,500にて。

編集後記

紅葉の盛りですが今年もあと僅かとなりふるさとは穏やかな佇まいです。歴史の町・温泉の町・香東川源流の町・過疎高齢の町・阿讃山麓峡谷自然の町がふるさと。来年はふるさとの事を理解することからスタートしたいものです。次号は来春予定します。(編集人矢田 敏雄:渡邊 剛至)